

# 越冬後の生育量確保に向け排水対策の徹底と追肥の実施

令和7年2月28日  
新潟農業普及指導センター

## 1 生育状況

- ・10月に降雨日が多く、播種日が近年に比べ遅れたことから、越冬前の生育は平年並～やや不良であった。
- ・近年に比べ降雪量が多く、越冬後の麦の生育は遅れる見込み。

## 2 排水対策・・・降雪量が多いことから、融雪水による湿害に注意

- ・湿害が生じると追肥しても生育は回復しにくくなるので、必ず排水溝及び明渠の点検・補修を行い、融雪水や降雨時の地表水が速やかに排水されるようにする。

## 3 越冬後追肥（消雪後追肥、茎立期追肥）

### (1) 消雪後追肥（表1参照）

- ・平均気温が4～5℃以上にならないと追肥の効果は現れない。

表1 アメダス地点別の平均気温（平年値）が4℃または5℃を超える日

アメダス地点	平均気温が4℃を超える日	平均気温が5℃を超える日
松浜	2月24日	3月7日
新潟	2月26日	3月7日
新津	3月8日	3月16日

- ・施用量は窒素、カリの成分量で2～3kg/10aとし、リン酸の追肥は不要。

### (2) 茎立期追肥（表2参照）

- ・茎立期追肥は、止葉抽出期追肥を確実にに行えるよう、生育量、葉色を判断して行う。
- ・茎立期は全主茎の40～50%の稈長が2cmとなった時期。

表2 茎立期追肥のめやす

茎数（本/m <sup>2</sup> ）	葉色（SPAD値）	追肥量（10a当り窒素成分量）
600本未満	42未満	2kg
	42以上	1～2kg
600本以上	42未満	1～2kg
	42以上	追肥は実施しない

## 4 越冬後の除草

- ・本県の転換畑に発生する雑草は、スズメノテッポウ、スズメノカタビラ、タネツケバナなどである。これらの雑草は、越冬後に生育が旺盛となる。麦と養分競合を起こすため、多発生すると雑草害による減収をもたらす。また、麦角病の発生要因にもなるため、雑草除去を徹底する。
- ・スズメノカタビラは、生育期処理除草剤の効果が劣る。